



第 85 号

発行所

大阪市史跡  
龍溪禪師墓所

霊亀山

九島院

〒550-0022 大阪市西区本町3丁目4番18号

TEL 06 (6583) 2725 FAX 06 (6583) 0908

発行者

第廿五代住職

奥田啓

知 (智證)

当院は、阪神なんば線で、なんばから7分です。

# 他人事じやない東名高速夫婦死亡事故

「カーッとしたところ十秒かぞえよ！」

今年6月に東名高速道路で、ワゴン車が大型トラックに追突され夫婦が死亡、娘2人が怪我をした事故は、その後の調べで、福岡の25歳の男が、手前のパーキングエリアで、駐車の手方を注意されたことに腹を立て、高速道路上を1キロにわたって追走、煽り運転を繰り返して、前に割り込んで減速し一家の車を追い越し車線に停車させたことが原因でした。

警視庁によると、車間距離不保持(煽り運転)の摘発は昨年、7625件に上り、そのうち約9割を高速道路上が占め、ドライバーの半数以上が後ろの車に煽られた経験をもつとの調査結果もあるそうです。

神奈川県警の調べに男は「ワゴン車の夫婦の夫に注意され、頭に来たのでやった」と供述しています。

この男は以前にも、妨害走行を3件起したと、悪質な運転の常習者でしたが、急な車線変更や思いがけないクラクションなど、『ハンドルを握ると人格が変わる』運転者に、肝を

冷やすと同時にカッターと来ることも日常茶飯事で、だれもが被害者になる可能性があるのと同時に加害者になりかねません。

お釈迦さまは、「悟りを開いた聖者も悟りを開いていない凡夫もともに第一の矢をうける。しかし、凡夫はその第一の矢に続いて第二の矢を受けるが、聖者は第二の矢を受けない」と言っておられます。誰しもドキッとしたり、「クソこの野郎」と思っています。それが第一の矢なのです。聖者として腹が立つのは同じなのです。

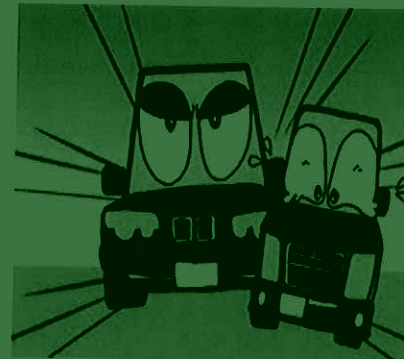
しかし凡夫は、その第一の矢につづけて第二の矢をうける。「危ないじゃないか。謝れ！」と腹を立てつづけ、ときには仕返しを考えたりします。それが、第二の矢なのです。聖者は、凡夫とちがって第二の矢を受けないのです。

「滴水滴凍」という禅語があります。これは、したたり落ちる水の一滴一滴が、

すぐさまその場で凍ってしまう、いわば瞬間冷凍を意味しています。心の流れが瞬間瞬間に凍りつけば、そこに煩惱という暖気が入る余地などないのです。

私たち凡夫は、日常生活において、しばしば腹をたてたり癪にさわったりします。そして、第二の矢を受けとり、仕返しまで考えてしまうことがあります。腹を立て癪にさわった瞬間にその感情をそのまま凍結させればいいのか。

怒り・腹立ちを瞬間冷凍させることはとても難しいことですが、トーマス・ジェファアソンが言った「怒りを覚えたら十数えよ。それでも怒りがおさまらなかつたら、百まで数えよ。それでもだめなら千まで数えよ」で、怒り腹立ちのコントロールをされてはいかがでしょうか。



墓地管

理費のご納付をお願いします。

。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

黄檗宗寺院巡り⑧ (大阪府内編)

祥雲山 慶瑞寺

黄檗宗宗源の禅寺・坐禅道場

祥雲山色落楓多  
三百五拾移歳葦  
黄檗宗源慶瑞寺  
参禅居士念弥陀

(意解) (平起式五歌)

祥雲山慶瑞寺は楓が舞い散り、二百五拾年という歳月が過ぎ去った。黄檗宗源のここ慶瑞寺に参禅の居士たちが、弥陀(オミト)を念じている。

むかし北摂を代表する町として栄えた富田。現在の高槻市昭和台町に、九島院の本寺の祥雲山慶瑞寺があります。阪急京都線の総持寺駅の東徒歩6分、住宅街のなかにひっそりと佇んでいます。寺伝によれば、持統天皇八年(六九四)我国で火葬を始め、宇

だるまさん、集めてます。ご不要なだるまさん(置物など)お寺へ譲ってください。

録世人の口実を碑とす」と伝承にもとづくことを明記しています。口伝の寺歴が事実のようです。元禄五年(一六九五)二代住持

の永泰和尚が黄檗山に差し出した書面には、九島院をはじめ7ヶ寺の慶瑞寺末寺が記載されています

九島院は小納が二十五代住持ですが、慶瑞寺世代(現住二十二代の寺坂道雄老大師)のうち、十人の住持が重なり九島院は慶瑞寺の隠居寺のような存在でした。

先代弘忠和尚は常々、小納に「慶瑞寺は誰が住職であつても、九島院の本寺であることを忘れてはいけない」と言われていました。

弘忠和尚も師父の栄忠和尚から一本寺に対しては、寺班等地、法階、年齢にはなんの関係もなく、丁重に付き合え」と言われていたそうです。

これは、延宝八年(一六八〇)黄檗山第二代本庵禪師が「慶瑞(代達空和尚をはじめ龍溪禪師遺徒(弟子)に対して、慶瑞寺尊重の諫言を残されていることを小納にも勸言されてのことだ」と思っています。

第二十一代重頭和尚は、最後の富田町長で、弘忠和尚は景仰されており、重頭和尚が師弟に恵まれず、その津養(葬式)に小子(遺弟)の押を勤められました。

現住道雄老大師は二十八歳ととき、縁あって慶瑞寺に晋山されましたが、前住職なきあと、境内は草木の茂り放題随分と荒れていたそうです。

現住は入山するや、すぐさま禅会を組織され、仏国寺補蓮室鈴木



慶瑞寺 山門

暗澹老大師、ご遷化されるや東祥寺古川道弘老大師、遷化をうけて、毎週日曜日と毎年の臘八大接心は欠くことなく続けてこられました。毎月の人室・参禅・提唱は、月を重ねるごとに参加者も増え、慶瑞禅会は発展の一途をたどりました。同時にお寺も、本堂の修築・位牌堂の新築・客殿庫裏の新築と昔日の面影を忘れるくらい大発展してきました。末寺住職として大変誇りに思っています。

墓地管理費のご納付をお願いします。墓参りの折、郵便振込みでも結構です。

12月

新軍団建設案計画

信託徒の誓ひごまへ

63 はじめての坐禅

(7回目)

参加者1名

余夜の修  
例行事



(3)

を

経会でおこなう参加費は1000円です。

左

1| 忘

3| 周忌

7| 回忌

13| 回忌

回忌

# 九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！

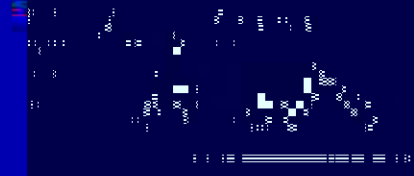
九島院のフェイスブックページを作りました！

## 九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！



九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！

九島院のフェイスブックページを作りました！検索してみてくださいね！

九島院のフェイスブックページ

九島院